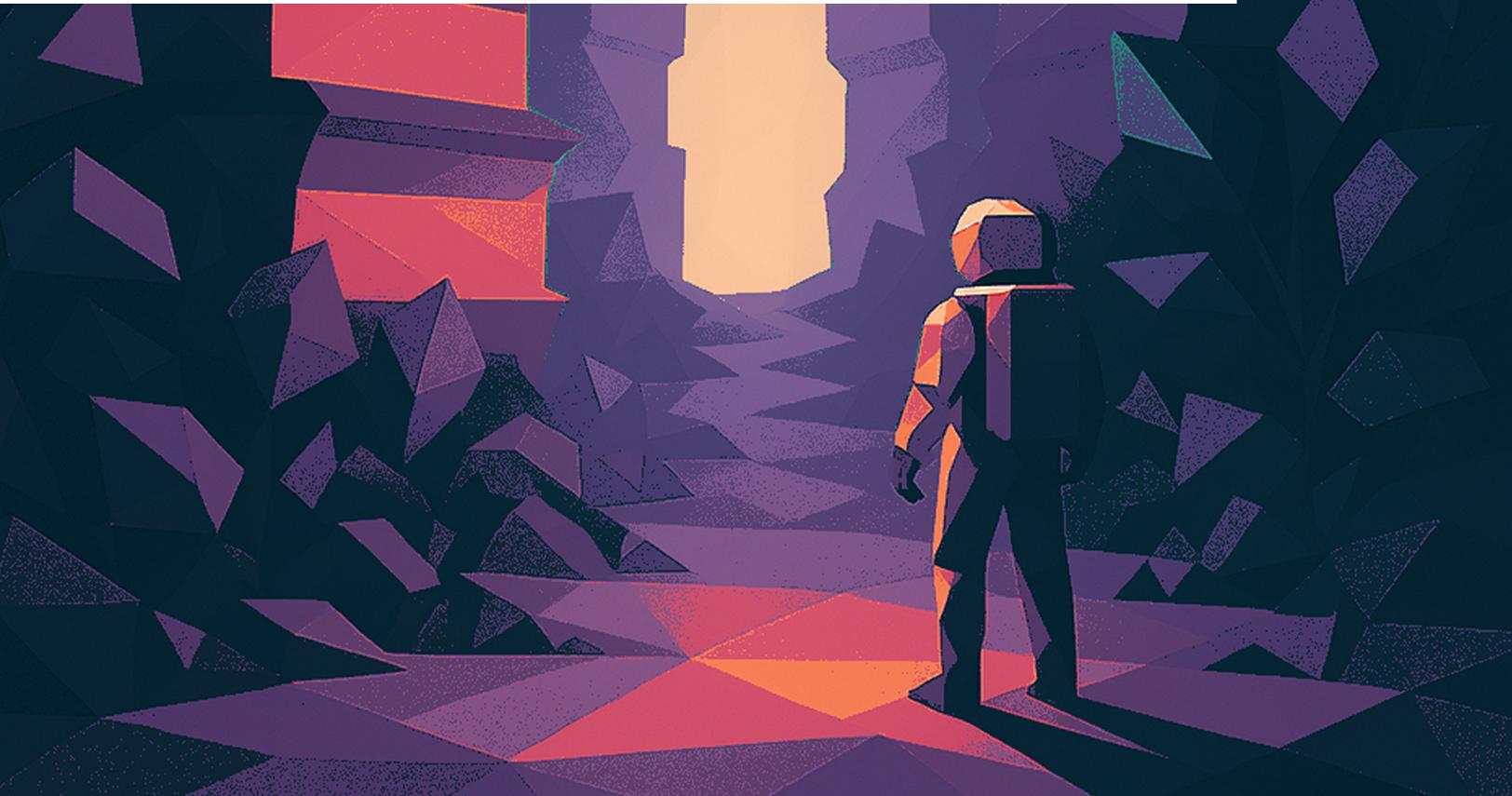


# 2026 AI IMPACT REPORT

NEW RELIC プラットフォームの洞察



# はじめに

現代のソフトウェアシステムは、分散アーキテクチャ上で継続的に動作し、定期的に変更がデプロイされています。

インシデントは頻繁に発生します。スタックのあらゆる層で問題が顕在化し、多くの場合、ノイズに埋もれたシグナルを見極めるのは困難です。システムパフォーマンスに関する情報はチームの対応能力を超える速度で増え続けています。実際、エンジニアリング時間のうち33%がトラブル対応やこうした障害への対応に費やされています。

2025年には、New Relicの顧客の監視対象環境で発生したアラートは22億件に上ります。本番システムだけで8億2,100万件の問題（潜在的なものを含む）が発生しました。こうした状況は、ソフトウェアの大規模運用に伴う恒常的な負荷の大きさを物語っています。

このような状況で効果的な運用を実現するには、迅速な状況の理解が求められます。チームは限られた時間の中でシグナルを読み取り、コンテキストを整理し、取るべき対応を判断しなければなりません。アラートは短時間のうちに次々と発生します。アラートを基に潜在的な問題を手作業で特定することは、ますます困難になっています。チームはアラートと潜在的な問題の中で、時間をかけるべき対象と単なるノイズを見極める必要があります。

AI強化型オブザーバビリティは、シグナルを整理し、コンテキストを明らかにし、稼働中のシステムに関する迅速な意思決定を支援することで、こうした制約に対処します。

本レポートでは、AIを用いて日常的なワークフローを監視する際、エンジニアリングチームがどのように運用を行っているかを検証します。本レポートの洞察は、2025年を通じたNew Relicのアクティブユーザー660万人の利用状況に関する匿名の集計データに基づいています。

本レポートの分析では、AIを有効活用しているチームにおいて、シグナルの明瞭性、解決速度、デプロイの傾向で安定した改善が見られることが示されています。

---

## データの読み方

本レポートの調査結果は実際の運用環境を反映したものです。運用パフォーマンスは、アーキテクチャ、チーム成熟度、インシデントプロセス、デプロイのプラクティス、ツールなど、多くの要因に左右されます。本レポートの調査結果はそうした実態を反映しています。

ただし、New Relic AI (NRAI) 利用アカウントと非NRAI利用アカウントとの間には、一貫して大きい差が見られます。数ヶ月におよぶ様々なメトリクスや環境の観測結果から、AI強化型オブザーバビリティ関連機能の活用によって、顕著で測定可能なメリットが得られることが伺えます。

本レポートにおいて、New Relic AI (NRAI) とは、機械学習、生成AI、決定論的手法を組み合わせることで価値を生み出す、オブザーバビリティプラットフォームのAI機能およびAIOps機能を指します。

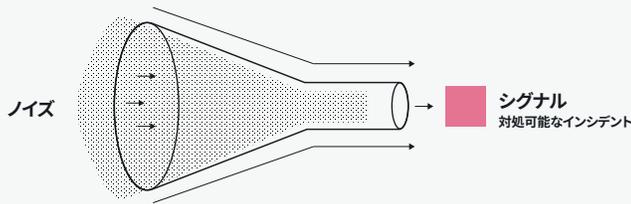
本レポートは、データが示唆する内容と、調査結果がどのように合理的に結び付くのかという説明に焦点を当てています。

# 主な調査結果

## AI強化型オブザーバビリティが ノイズを減らし、生産性を高める

### 2025年において、NEW RELICの本番環境で発生した インシデントは22億件に

こうした膨大なデータ量は、現代のエンジニアリングチームがアラート疲れの深刻化に直面している現状を浮き彫りにし、現代の大規模なソフトウェア運用を管理するにはプラットフォームレベルのインテリジェンスが不可欠であることを示しています。



### ノイズ低減: 相関率が2倍に向上

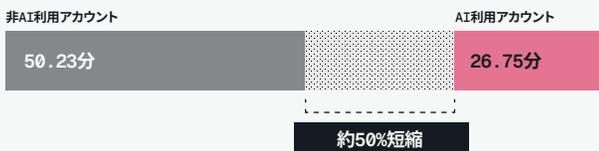
運用上のノイズへの対処において、New Relic AIを利用する構成では、AIを利用しない構成と比較して相関率が2倍向上しました。相関率とは、ソフトウェアが繰り返し発生する大量のエラーメッセージを処理し、単一の対応すべき「インシデント」にまとめる効果を示す指標です。プラットフォームが関連イベントをインテリジェントに分類することで、エンジニアリングが「ノイズ」に圧倒されるのを防ぎ、チームが症状ではなく根本原因への対応に注力し、機能のリリースにより多くの時間を割けるようになります。

**2倍** ↑  
相関率が  
向上

### AIにより解決速度が25%向上

2025年を通じて、New Relic AIを利用しているアカウントは、それ以外のアカウントよりも平均クローズ時間 (MTTC) が一貫して短く、問題解決速度が平均で約25%向上しています。パフォーマンスのピーク時には、その差がさらに拡大しました。2025年5月には、AI利用アカウントの平均MTTCは26.75分であるのに対し、非AI利用アカウントは50.23分でした。

#### 平均クローズ時間(分) (2025年5月)



### AIによるチームの生産性向上: デプロイ頻度が5倍に

AIはチームの生産性を向上させます。AIを導入したチームでは、デプロイ頻度が大きな伸びを見せています。ピーク時において、非AI利用ユーザーの1日あたりのデプロイ数は平均87回でしたが、AIを導入したチームは1日あたり最大453回のデプロイを達成しており、AIの導入によって新機能やアップデートの市場投入能力が5倍に増強されました。

**5倍** ↑  
デプロイ頻度が  
向上

# 相乗的な影響

## AI強化型オブザーバビリティの効果

テレメトリデータの氾濫により、エンジニアリングの生産性が低下するおそれがあります。分散システムから1分間に数千件（場合によっては数百万件）ものシグナルが生成され、そのほとんどがノイズです。本レポートでは、AI強化型オブザーバビリティが、テレメトリから有用な洞察を収集し、ソフトウェア開発ライフサイクル（SDLC）で活用するプロセスを変え、ノイズを根本的に低減する仕組みを解説します。これは、New Relicの利用データの匿名・集計メトリクスに基づいて測定されます。

データは相乗効果があることを示しています。まずは、シグナル最適化が起点となります。ここでは、AIによって評価疲れを引き起こし得る環境ノイズを除去します。このように状況が明確になることで、より迅速かつ正確なインシデント解決に直接つながり、チームは障害によるビジネスへの悪影響を最小限に抑えながら、エンジニアの作業負担を減らすことができます。

最終的には、エンジニアリング時間に多くの余裕が生まれ、研究開発に充てることが可能になり、組織のコードリリース頻度が平均で約80%向上します。

2025年のテレメトリデータは、AI強化型の 이슈 関連機能（関連アラート、イベント、シグナルを対処可能なインシデントにまとめる機能）によってシグナル対ノイズ比が改善するとともに、以下のような改善効果が得られることを示しています。

図1.A

### 相乗効果が好循環を生む： エンジニアリング速度の向上

学習と計装の改善

デプロイ頻度の向上

1日あたりの  
デプロイ頻度が  
5.2倍増加

学習と  
計装の改善

ノイズが27%減少し、  
相関率が60%向上

システムの  
信頼性向上

迅速で確実な  
復旧を実現

インシデント  
解決の迅速化

MTTCが25%短縮

# シグナルの最適化

## 運用ノイズを排除する

迅速な行動を可能にするには、状況を明確に把握する必要があります。実際の現場では、エンジニアリング組織はコンテキストの乏しい数千件のアラートというノイズに圧倒されています。New Relicのオペラビリティプラットフォームは、運用データの評価フローを体系化することでこうした問題に対処し、重要な情報を保ちながら、ノイズを徐々に減らします。

このプロセスは、システム全体で生成された未加工のアラートが起点となります。関連するアラートを、顕著または異常な挙動を示す単一の 이슈にまとめます。これはインシデントとして扱うほど重大度が高い場合もあります。New Relic AIやプラットフォームのAIOps機能はそうした 이슈の潜在的な影響を分析し、ユーザーが重視または指定しているパフォーマンスの閾値に基づいて重大度を評価します。

次に、システムがサービス、依存関係、インフラストラクチャにまたがる 이슈間の関係を特定し、重要なシグナルにおける変化（デプロイや異常）との関連性を明らかにすることで、最も可能性の高い原因を判定します。この情報はすべて、通知を受けた対応者が最初に見るNew Relicのページに表示されるため、単一の根本的な問題に関わる重要データを素早く分析できます。インシデントを単一の 이슈にまとめることで冗長な通知が減るため、エンジニアは根本原因が疑われる問題に直結する作業項目を明確に把握できます。

このアプローチにより、チームはノイズに圧倒されることなく可視性を保ち、疑わしい 이슈と根本原因に注力できるようになります。エンジニアはすべての症状を調査する必要がなくなり、スタック全体で発生している挙動の原因となっている 이슈の解決に注力できます。

### 実用的なデータの構造

- **アラート**: 監視条件に基づいて生成される、閾値違反を知らせる未加工の通知。大量に発生し、コンテキストに欠けます。
- **イシュー**: アラートの相関付けによって得られる結果。潜在的な問題を示すものであり、インシデントを宣言する前に障害の潜在的な影響を評価するための主要な作業項目となります。
- **エスカレーション**: イシューをエスカレーションした結果。多くの場合、問題の是正を支援するためにエンジニアやSREを招集します。エスカレーションは、調査担当者がシステムを正常な状態に復旧するために利用可能な緩和策を特定し、適用する間の主要な作業項目となります。

上記の用語はNew Relic内部の運用構造を示しており、New Relicユーザーが採用している一般的なITサービスマネジメント (ITSM) プラクティスを反映しています。

### AI相関分析

アラート間の関係を評価し、単一の 이슈を特定し、その 이슈を潜在的な原因（例：デプロイ、異常、エラー）と関連付ける分析レイヤーです。問題の相関によって通知量が減り、イシューと発端となるアクション（デプロイなど）との関係を明らかにすることで解決時間が短縮します。

# AI利用 アカウント

一貫してアラートノイズが低減

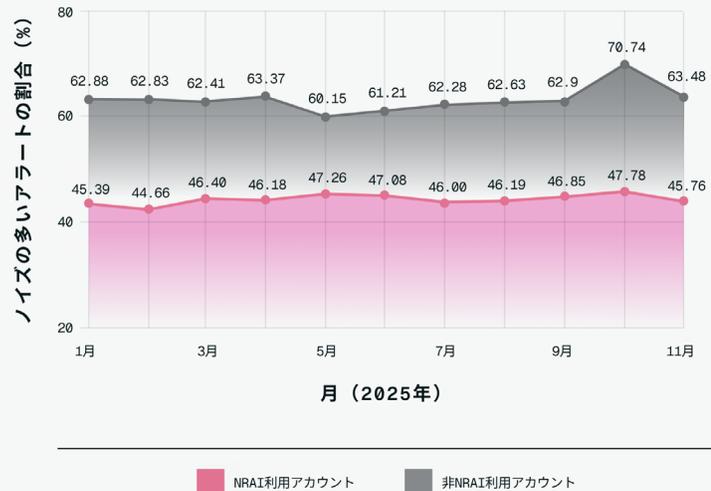
図2.A

迅速な対応はシグナルの  
向上から：AI利用アカウント  
では一貫してアラートノイズが  
減少

AI相関分析は関連するシグナルを少数の有用な項目に  
まとめ、冗長性を削減します。これにより、エンジニアは  
調査の起点を明確に把握できるようになります。

ノイズとなるアラートの  
平均割合 (2025年)

New Relic AI利用アカウントのノイズアラート率は平均で  
約46%であるのに対し、非AI利用アカウントでは約63%でした。



実際、アラートノイズを引き起こしているのは「大量のテレメトリー」ではなく、アラートポリシーの範囲が不適切であることです。

New Relicでは、トリガー条件が6を超えるアラートルールをノイズの多いポリシーと定義しています。このようなポリシーでは、考え得るあらゆる障害モードを単一のアラートに詰め込もうとします。その結果は容易に想像できます。アラートが頻発し、コンテキストが乏しくなり、アラートが本当のインシデントを示すものか確信が持てなくなります。

徐々に、チームはそのようなアラートをノイズとして扱うようになります。エンジニアは調査を先延ばしにしたり、アラートを完全にミュートしたり、内輪の知識に頼って無視できるアラートを判断したりします。こうした状況はエラー率には表れませんが、対応の質や速度を直接低下させる要因となります。

AI利用アカウントでは挙動が異なります。

AI支援型ワークフローでは、関連するシグナルを少数の対応すべきインシデントに相關させることで、まず、複雑すぎるアラート定義の必要性を減らします。チームは、不確実性を多くの条件設定で取り除こうとするのではなく、相関関係に基づいて重要な不具合を明らかにします。

2025年を通じて、NRAI利用アカウントのノイズアラート率は平均で約46%にとどまったのに対し、非AI利用アカウントでは約63%で、AI未導入環境の多くで70%を超えました。この差はどの月でも一貫しており、一時的な調整の効果ではなく、アラートの設計および運用方法における構造的な違いであることを示唆しています。

# 高い 相関率

## アラートノイズが低減する仕組み

システムにおいてアラートノイズと相関性は表裏一体の関係にあります。相関性が低い場合、チームはアラートポリシーに条件を追加してそれを補おうとします。相関性が高い場合、関連するシグナルが自動的にまとめられるため、アラートの複雑化を避けられます。

相関率は、プラットフォームが関連エラー、イベント、シグナルを単一の対応すべきインシデントにまとめる効果を測る指標です。相関率が高いほど、断片的なアラートが少なく、エンジニアの調査の起点がより明確であることを示します。

2025年を通じて、AI機能を利用したアカウントでは、イシュー相関率が毎月向上したと報告されています。これは、個々のインシデントのグループ化が改善するだけでなく、環境の拡大・縮小や変化が起ころうとも運用効率が維持されることを示しています。

例えば、CPU、メモリ、レイテンシに関するアラートが個別に発報される代わりに、相関付けされたテレメトリーが単一の対処すべきイシューとして関連シグナルとともに表示されます。

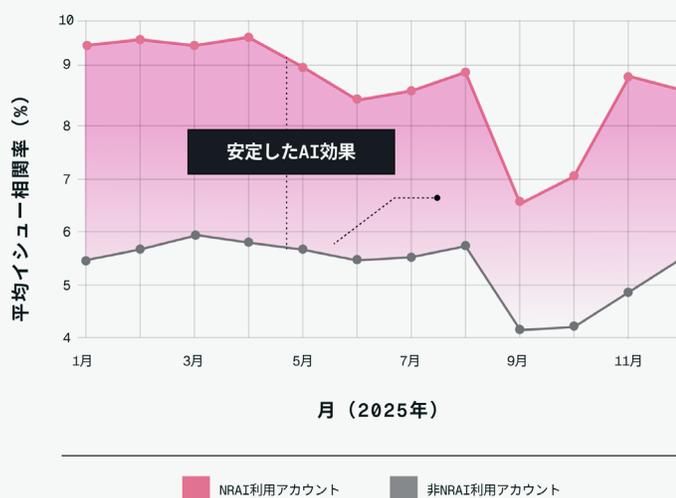
New Relic AIの活用により、エンジニアが処理しなければならないイベントが減り、アラートの管理ではなく、機能のリリースにより多くの時間を充てられるようになります。

図3.A

### NRAIの相関エンジンのパフォーマンスは一貫してベースラインを上回る

2025年を通じて、AI機能を利用したアカウントでは、イシュー相関率が毎月大幅に上昇したと報告されています。これは、エンジンにより、テレメトリーがまとまりのないエラーの一覧ではなく、管理可能な作業項目に適切にグループ化されていることを示しています。

経時的な平均イシュー相関率 (2025年)



# 解決速度

## フィードバックループを閉じる

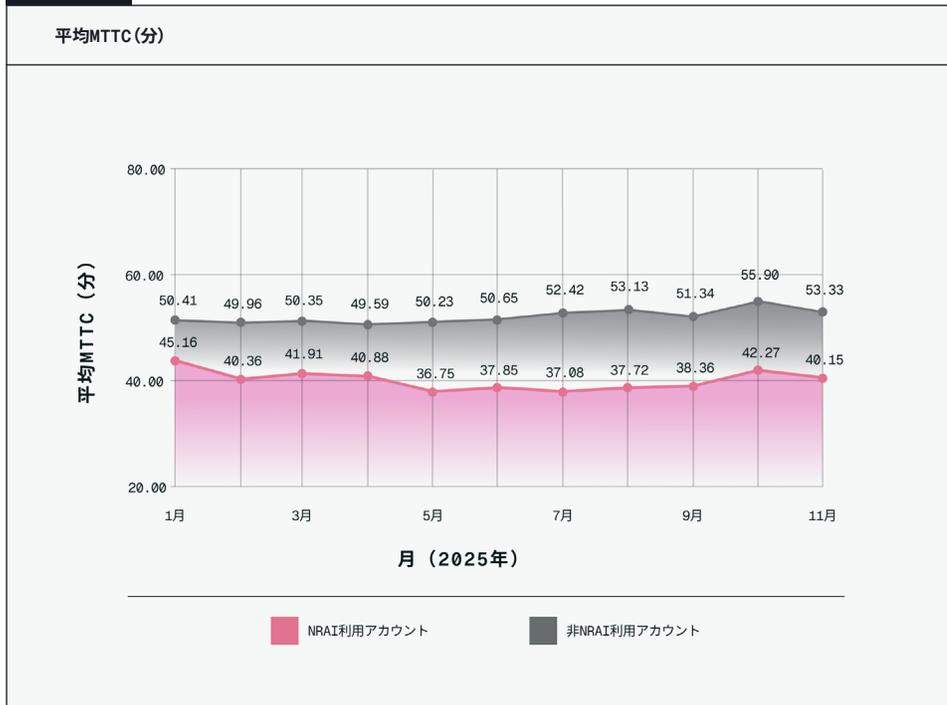
ノイズ抑制の次に、成功を測る主な指標となるのは、エンジニアが 이슈とそれに伴うインシデントを調査し、クローズする速度です。イシュー（潜在的な問題を示す相関付けされたアラート）では、この速度は平均クローズ時間（MTTC）で測定します。これは問題が継続する平均期間を指します。MTTCはシステムの停止から復旧する速度と強い相関性があります。

### 優れたMTTC

2025年を通じて、New Relic AIを利用しているアカウントは、それ以外のアカウントよりも平均クローズ時間（MTTC）が一貫して短く、問題解決速度が平均で約25%向上しています。パフォーマンスのピーク月には、その差がさらに拡大しました。2025年5月には、AI利用アカウントの平均MTTCは26.75分であるのに対し、非AI利用アカウントは50.23分でした。

こうしたイシューあたり約23分の違いはすぐに積み重なっていきます。これにより、調査の停滞を招く無駄な時間が減り、切迫したイベント対応でもエンジニアの推進力が保たれます。

図4.A



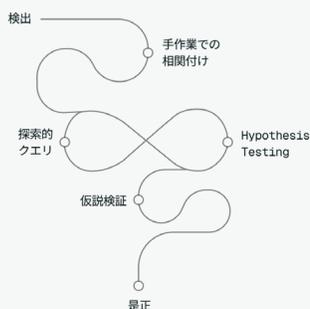
解決速度は多くの要因に左右されますが、MTTCの差は継続しています。このことは、AIを活用した機能により、ITSMライフサイクルの初期段階でコンテキスト、関連シグナル、可能性の高い障害パターンが明らかになり、トラブルシューティングの「検出」フェーズにおける手作業を大幅に減らせることを示しています。

図5.A

## より直接的な是正対応が 迅速な解決をもたらす

インシデント対応では、チームはシグナルの解釈、テレメトリーの調査、仮説の検証が必要となります。これらの運用ワークフローにおいて、AIはコンテキストと方向性を迅速に明らかにするためのインターフェースとなります。

### 従来の調査



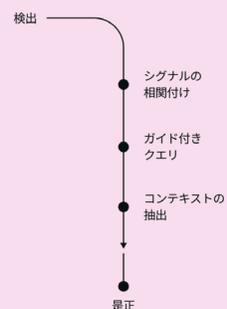
#### 手動調査の削減:

ガイド付きクエリの実行率が高まり、調査に要する時間が短縮します。

#### 調査の効率向上:

インシデント対応では、自然言語クエリとドキュメントの検索を頻繁に行います。

### AIを活用した調査



#### 作業負担の削減:

探索的クエリの繰り返しが減り、作業負担が削減されます。

図6.A

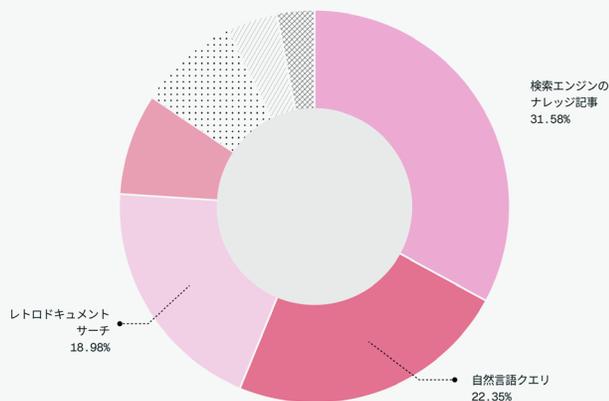
## AIが解決を加速させる： 検知から対応指針まで

AIが瞬時にコンテキストを提供し、クエリを提案し、関連パターンを特定することで、対応時間の短縮が可能になります。これは、これまで手動で行っていたトラブルシューティングの「検出」フェーズを置き換えるものです。

### AIチャットプロンプトの主なカテゴリ

163万件

昨年中にエンジニアが入力したAIチャットプロンプトの総数。



# R&D (研究開発) スループット

## 取り戻した時間をイノベーションに活用する

2025年の調査結果の最終章は、技術リーダーが最も重視する研究開発スループットです。多くの組織では、デプロイ頻度を制限しているのはデプロイ速度ではなく、手作業でのトリアージ、トラブルシューティング、信頼性エンジニアリングに伴う作業という「負担」と、壊れやすい環境を破壊してしまうことへの恐れです。

組織は作業負担（トリアージ、ノイズの低減）に要する時間を減らすことで余力を生み出し、競合他社よりも迅速にコードをリリースするために充てています。

### リリース頻度の向上の定量化

約660万人のユーザーを対象とした分析により、AIの導入状況によって成果に大きな差が生まれることが明らかになりました。NRAI利用アカウントでは、1日あたりのデプロイ頻度が非AI利用アカウントの約2倍に達しています。

2025年のピーク時には、NRAI利用アカウントでは1日あたり平均452.99件のデプロイ数を達成しましたが、非ユーザーではわずか87.04件にとどまっています。

図7.A

### イノベーションの成果： デプロイ頻度が80%増加

NRAI利用アカウントでは、1日あたりのデプロイ率が非AI利用アカウントのほぼ2倍です。

1日あたりの平均デプロイ数

2025年のピーク時には、NRAI利用アカウントでは1日あたり452.99件のデプロイ数を達成しましたが、非ユーザーではわずか87.04件にとどまっています。



■ NRAI利用アカウント ■ 非NRAI利用アカウント

注：  
データによると、NRAI利用アカウントではデプロイ数が平均で約80%向上しています

## イノベーションの成果

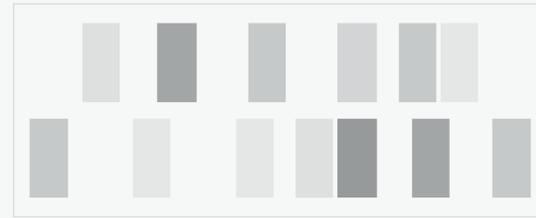
データが浮き彫りにしているのは、新たな運用ベースラインの1つです。ノイズが減り、解決が加速することで、チームは既存機能の保守ではなく、新機能の開発に充てられる労力が約80%増加しました。

この指標からは、組織の市場対応能力を測ることができます。組織の運用上の負担が最小化すると、企業全体のスピードが加速します。本レポートは、最初の相関アラートから同日の最後のデプロイに至るまで、New Relic AIがチームを高い速度と安定性を備えたエンジニアリングという新たな基準に導くことを示しています。

図8.A

### デプロイの増加が 自信を高める

データは新たな運用ベースラインを示しています。重大なアラート率が低下し、解決が迅速化することで、チームは大規模で高リスクのバッチではなく、小規模で頻繁な更新をデプロイできるようになります。運用コストを最小化することで、企業全体のスピードが加速します。



RISKY, BATCHED DEPLOYMENTS



FREQUENT, CONFIDENT DEPLOYMENTS

問題はAIが価値を高めるかどうかではありません。

# 問われているのは、AIなしで企業が運用していける余裕があるかどうかです。

付録: AIの利用状況とパフォーマンスの詳細

項目別NRAIクエリ数 (%)	AIツールのレイテンシと応答パフォーマンス																																																																																																	
																																																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>クエリ数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Search Engine KnowledgeArticles</td><td>123 k</td><td>31.59%</td></tr> <tr><td>Natural Language Query</td><td>86.9k</td><td>22.35%</td></tr> <tr><td>Retro DocSearch</td><td>73.8k</td><td>18.99%</td></tr> <tr><td>Search Engine NR_Docs</td><td>72.8k</td><td>18.74%</td></tr> <tr><td>Search Engine ForumTopics</td><td>6.86k</td><td>1.76%</td></tr> <tr><td>Insight Cause Interpreter</td><td>578</td><td>0.15%</td></tr> <tr><td>Issue Insights v2</td><td>232</td><td>0.054%</td></tr> <tr><td>NL2NRQL</td><td>113</td><td>0.029%</td></tr> <tr><td>Summarize NRQL Result</td><td>105</td><td>0.027%</td></tr> <tr><td>Logs Parsing Pattern Generator</td><td>105</td><td>0.026%</td></tr> <tr><td>SessionReplay Trail Analyzer</td><td>89</td><td>0.023%</td></tr> <tr><td>Alert Condition Recommendation</td><td>58</td><td>0.011%</td></tr> </tbody> </table>	項目	クエリ数	割合 (%)	Search Engine KnowledgeArticles	123 k	31.59%	Natural Language Query	86.9k	22.35%	Retro DocSearch	73.8k	18.99%	Search Engine NR_Docs	72.8k	18.74%	Search Engine ForumTopics	6.86k	1.76%	Insight Cause Interpreter	578	0.15%	Issue Insights v2	232	0.054%	NL2NRQL	113	0.029%	Summarize NRQL Result	105	0.027%	Logs Parsing Pattern Generator	105	0.026%	SessionReplay Trail Analyzer	89	0.023%	Alert Condition Recommendation	58	0.011%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ツール名</th> <th>p50(秒) (50%)</th> <th>p95(秒) (95%)</th> <th>p99(秒) (99%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Root Cause Tool</td><td>3.573</td><td>3.573</td><td>3.573</td></tr> <tr><td>Retro DocSearch</td><td>3.359</td><td>6.469</td><td>8.313</td></tr> <tr><td>Search Engine NR_Docs</td><td>2.941</td><td>4.086</td><td>4.339</td></tr> <tr><td>Search Engine ForumTopics</td><td>2.934</td><td>3.863</td><td>4.14</td></tr> <tr><td>Insight Cause Interpreter</td><td>2.678</td><td>3.448</td><td>3.448</td></tr> <tr><td>Search Engine KnowledgeArticles</td><td>2.559</td><td>3.254</td><td>3.785</td></tr> <tr><td>Search Engine ForumBestAnswers</td><td>2.119</td><td>2.544</td><td>2.54</td></tr> <tr><td>SessionReplay Trail Analyzer</td><td>1.182</td><td>1.185</td><td>1.185</td></tr> <tr><td>Summarize NRQL Result</td><td>1.561</td><td>1.185</td><td>1.968</td></tr> <tr><td>Natural Language Query Indexer</td><td>1.144</td><td>1.185</td><td>1.968</td></tr> <tr><td>Natural Language Query</td><td>1.141</td><td>1.641</td><td>2.344</td></tr> <tr><td>Condition Coverage Gaps</td><td>0.617</td><td>0.617</td><td>0.617</td></tr> <tr><td>Issue Insights v2</td><td>0.259</td><td>0.306</td><td>0.306</td></tr> </tbody> </table>			ツール名	p50(秒) (50%)	p95(秒) (95%)	p99(秒) (99%)	Root Cause Tool	3.573	3.573	3.573	Retro DocSearch	3.359	6.469	8.313	Search Engine NR_Docs	2.941	4.086	4.339	Search Engine ForumTopics	2.934	3.863	4.14	Insight Cause Interpreter	2.678	3.448	3.448	Search Engine KnowledgeArticles	2.559	3.254	3.785	Search Engine ForumBestAnswers	2.119	2.544	2.54	SessionReplay Trail Analyzer	1.182	1.185	1.185	Summarize NRQL Result	1.561	1.185	1.968	Natural Language Query Indexer	1.144	1.185	1.968	Natural Language Query	1.141	1.641	2.344	Condition Coverage Gaps	0.617	0.617	0.617	Issue Insights v2	0.259	0.306	0.306
項目	クエリ数	割合 (%)																																																																																																
Search Engine KnowledgeArticles	123 k	31.59%																																																																																																
Natural Language Query	86.9k	22.35%																																																																																																
Retro DocSearch	73.8k	18.99%																																																																																																
Search Engine NR_Docs	72.8k	18.74%																																																																																																
Search Engine ForumTopics	6.86k	1.76%																																																																																																
Insight Cause Interpreter	578	0.15%																																																																																																
Issue Insights v2	232	0.054%																																																																																																
NL2NRQL	113	0.029%																																																																																																
Summarize NRQL Result	105	0.027%																																																																																																
Logs Parsing Pattern Generator	105	0.026%																																																																																																
SessionReplay Trail Analyzer	89	0.023%																																																																																																
Alert Condition Recommendation	58	0.011%																																																																																																
ツール名	p50(秒) (50%)	p95(秒) (95%)	p99(秒) (99%)																																																																																															
Root Cause Tool	3.573	3.573	3.573																																																																																															
Retro DocSearch	3.359	6.469	8.313																																																																																															
Search Engine NR_Docs	2.941	4.086	4.339																																																																																															
Search Engine ForumTopics	2.934	3.863	4.14																																																																																															
Insight Cause Interpreter	2.678	3.448	3.448																																																																																															
Search Engine KnowledgeArticles	2.559	3.254	3.785																																																																																															
Search Engine ForumBestAnswers	2.119	2.544	2.54																																																																																															
SessionReplay Trail Analyzer	1.182	1.185	1.185																																																																																															
Summarize NRQL Result	1.561	1.185	1.968																																																																																															
Natural Language Query Indexer	1.144	1.185	1.968																																																																																															
Natural Language Query	1.141	1.641	2.344																																																																																															
Condition Coverage Gaps	0.617	0.617	0.617																																																																																															
Issue Insights v2	0.259	0.306	0.306																																																																																															

© Copyright 2026, New Relic, Inc. 禁無断転載。本レポートで参照された全ての商標および商号、サービスマーク、ロゴはそれぞれの所有者に帰属します。01.2026

